

第57回自治体学校 in 金沢 参加報告

日本共産党 呉市議会議員団

奥田 和夫

期間：2015年7月25日（土）→27日（月）

会場：金沢市内にある本多の森ホール、金沢大学、石川県文教会館

上記の日程で行われた自治体学校に参加したので、感想を含め報告します。

この学校は記念講演や特別講演などありますが、2日目の分科会などでは自分の経験や意見を述べることもできるし、質問もできる。「みんなが先生、みんなが生徒」の側面ももっています。

1日目 全体会は[記念講演 地方自治の危機と再生への道 宮本憲一氏]

海軍兵学校の78期生で現在85歳、自らの戦争体験から始まり、安保法制がもたらす危険な状況を話されました。そして沖縄の新基地の問題に触れられ、「政府の専管事項として押し切られれば、地方自治の破壊になる。戦後の地方自治の命運を問う問題」と指摘されました。

また、戦後の地方自治の基本に立ち返り、「地方自治の基礎は住民自治であり、その基礎の上に団体自治が確立する。同時に団体自治は住民自治を強める役割を担うべき」と地方自治の本旨を明快に述べられ、すっきりでした。

続く[パネルディスカッション]は記念講演に応えるかたちでおこなわれました。岡田知弘氏は「地方創生による地方自治破壊の動きとそれへの対抗軸の提起」がされました。武田公子氏は「白山市の調査をもとに、平成の合併の検証」がされました。岡庭一雄氏は「住民自治の充実こそ大事。住民の喜びをもたらす」地方自治体の原点に立った提起だったと思います。

2日目 分科会・講座は[子どもの育ちを保障する]に参加しました。子どもの貧困と改善の課題ということで浅井春夫氏が中心的に話されました。子どもの貧困が広がっていること。それへの対策が日本では遅れていること。必要な対策などが話されました。子どもの貧困を考えるNPOの方の話も感動的でした。

[ナイター企画 国保の都道府県単位化とは何か]長友薫輝氏の講演でした。国保の県単位化、ずいぶん大切なことが話されたのですが、ナイターという制約で消化不良でした。もっと時間をかけて聞きたい中身でした。

3日目 全体会は[特別講演 世界農業遺産『能登の里山里海』と地域再生・中村浩二氏]でした。「里山」というタイトルで、余り期待もしていなかったのですが、能登における地域再生の取り組みを紹介されました。大学と自治体が連携して人材の育成に取り組んでいる。世界に発信されているそうです。

久々の参加でしたが、刺激をもらった学校でした。